

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等の注記)	6
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

前第3四半期連結累計期間に暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前第3四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、緩やかな回復傾向が続いております。一方で、国際情勢の不確実性が金融・為替市場に与える影響も懸念されており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域である情報サービス産業を取り巻く環境については、企業収益の改善傾向が続く中、人手不足対応やデジタル化に向けたソフトウェア投資を中心に、企業のIT投資への意欲は底堅く、IT投資需要は引き続き拡大することが期待されます。当社グループの属する国内CMS市場においてもWebサイトの重要性が増してきていることから、WebマーケティングやWebに関わる業務改善についても興味・関心をもたれる企業が増加してきております。また、事業変革に向けデジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みが加速し、生成AIの利用促進により、国内企業におけるDX投資の需要は堅調に推移してきました。特に、生成AIの実務活用の流れが急速に拡大しており、コスト削減や業務効率化、そして新たな働き方を創造するための最先端技術を活用した取り組みが活発化しております。

このような事業環境の中、当社グループは「そのビジネスに、伝える力を。」をコンセプトとして、Webサイトコンテンツ管理システム「infoCMS」、および次世代CMS「LENSA Hub(レンサハブ)」を活用し、Web受託開発・SaaSサービスを主軸としたWebコーポレートコミュニケーションの総合支援を主事業としております。子会社である株式会社アイアクトからは、AI(人工知能)を利用したファイル・サイト内検索システム「Cogmo Search」、AIチャットボットシステム「Cogmo Attend」のサービスを提供するなど、自社開発のCMSやAI関連技術を用い、Webコーポレートコミュニケーションを通じて、業務効率向上、将来の事業変革へと繋がる業務改善支援やWebマーケティングなどの情報発信の総合支援サービスを提供する事業展開を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、中長期的な成長基盤の強化を目的とし株式会社オズファクトリーが営むすべての事業を譲り受けました。譲渡会社は長年にわたりパワーポイント制作事業を手掛け、その高い品質から上場企業を含め、幅広い顧客からの信頼を得ております。今後も市場環境の変化に迅速に対応し、さらなる競争力強化を図るため、M&Aやアライアンスを含む機動的な組織再編を積極的に検討・実施してまいります。

2025年11月には、150以上の診断項目で採用サイトの課題を見える化できる「採用サイト無料診断」をリリースいたしました。本診断では数多くの企業サイトを支援する当社のノウハウに加え、採用・コンテンツマーケティングのプロフェッショナルである弊社グループ会社のノウハウとAIによる客観的な分析を用いて企業の採用サイトの課題を抽出します。今後当社では企業のマーケティング活動にとどまらず、採用活動の最適化を実現するための支援活動も行っております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,397,216千円(前年同四半期比0.9%増)、営業損失は79,792千円(前年同四半期は営業利益50,218千円)、経常損失は86,922千円(前年同四半期は経常利益46,976千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は120,659千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益11,557千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,858,370千円となり、前連結会計年度末と比較して199,141千円の減少となりました。流動資産は848,573千円となり、前連結会計年度末と比較して264,354千円の減少となりました。これは、現金及び預金が171,554千円、受取手形、売掛金及び契約資産が143,326千円それぞれ減少したこと等によるものであります。固定資産は1,009,797千円となり、前連結会計年度末と比較して65,213千円の増加となりました。これは、有形固定資産が107,417千円増加したこと等によるものであります。流動負債は572,823千円となり、前連結会計年度末と比較して67,766千円の増加となりました。これは、短期借入金が100,000千円増加したこと等によるものであります。固定負債は287,448千円となり、前連結会計年度末と比較して128,284千円の減少となりました。これは、長期借入金が115,656千円減少したこと等によるものであります。純資産は998,097千円とな

り、前連結会計年度末と比較して138,623千円の減少となりました。これは、利益剰余金が122,016千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月15日に発表しました2026年3月期の連結業績予想に変更はありません。